

令和8年度 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク

第5回 概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究員 杉山 拓次

■第5回 春日山原始林の夕暮れ～夜（春日山遊歩道南部）

実施日：2026年7月25日（土）18:00～21:00

参加者：10名（学生：5名、外部教員：1名、外部参加者：2名 児童：2名）

教職員：杉山、河野、中澤

概要：夕暮れの春日山へ足を踏み入れ、夜になる時間を過ごします。明かりのない暗闇を体験し森の息遣いを感じます。

スケジュール	
18:00	春日山遊歩道南入口 集合
18:10	自己紹介
18:15	春日山遊歩道を歩き始める
18:35	五感の体操
18:45	妙見宮まで移動（途中、夕暮れの風景、木々のシルエット等を感じながら歩く）
19:10	妙見宮にて休憩・軽食・暗くなるのを待つ
19:40	暗くなった森を明かりをつけずに降りる
20:00	遊歩道で寝転がる
20:30	ライトをつけて下山（途中で生き物を観察）
21:00	終了

■概要報告

日中は38度となったこの日、集合時間の18時も空には入道雲が空高く上がっていた。汗だくになりながら参加者に集合いただき、フィールドワークをスタートした。

春日山遊歩道に少し足を踏み入れると、気温差がかなりあることを実感した。今回、はじめて春日山原始林を歩く学生もいたため、春日山原始林の背景等にも少しふれながら歩く。遊歩道を歩いてすぐのところにあるイチイガシを観察し、照葉樹林の特徴について解説した。

少し歩いた場所で、恒例の「五感の体操」を行う。目を閉じて、微かな空気の流れを体感したり、春日山原始林の代表的な夏の音となるヒメハルゼミやヒグラシの合唱に耳を澄ませるなどして、森を身体で感じる時間を持った。

その後、遊歩道を妙見宮を目指して歩く。夕暮れの時間となり、夕焼けの日差しが山の斜面の上部にあたり橙色に染まる様子や、次第に暗くなり木々のシルエットが強調される様子。歩道沿いにあるケヤキの巨樹の枝ぶりについてなど解説したほか、あるポイントで耳の後ろに手を当てると水の流れる音が聞こえるようになるなど、森を観察したり体感することで楽しんだ。

妙見宮にて、軽食を取り、日没から暗くなるまでしばらく休憩したのち、明かりをつけずに折り返し道を下る。明かりをつけずに過ごしていたため、目が暗闇に慣れライトをつけずに歩くことができ

た。また、この日は月明かりが明るく、月の明かりによって影が出るほどであった。

森の中でも木々に囲まれ光の入りにくい谷部へ迫る道は闇が濃く、谷部から離れると少し明るなることなども実感しながら歩いた。日没を過ぎると、それまで鳴いていた蝉の声はパッタリと止み、時折、アオバズクの鳴き声を聞くことができた。

途中、ギャップとなっている場所でそれぞれ敷物を敷き、寝転がる。月明かりの中で少し星も見える状況の中、30分程度静かに過ごした。途中、ムササビの鳴き声やガサガサと生き物の動く音などが聞こえ、夜の森に生き物の気配を感じることができたほか、静かに過ごすことで森と一体化する感覚を味わった。

以降は、ライトをつけて周辺を観察しながら下山。モリアオガエル（もしくはシュレーゲルアオガエル）やマムシ、クワガタのメス個体などを観察することができた。普段は立ち入ることのない夜の森のさまざまな表情を味わうフィールドワークとなった。

■写真



春日山遊歩道を歩く、森の中は涼しい



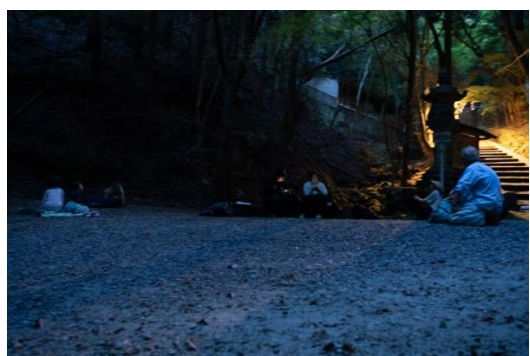
イチイガシの巨木を見上げる



夕暮れの春日山原始林



夕暮れの春日山原始林



妙見宮で軽食を取る



この日の月はとても明るかった。



月明かりで影ができる



暗闇の中で寝転ぶ



ライトをつけて観察



遊歩道入口にて解散